

## 夏秋きゅうり防除暦(前半)

	防除時期	使用薬剤名	水 100% 当りの量	使用量	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備 考
1	定植時 5月上旬 下旬	アクタラ粒剤5 オリゼメート粒剤		1g/株 5g/株	P2	4A	アブラムシ類、トマトハモグリバエ コナジラミ類 斑点細菌病	ベリマークSC処理苗の場合、 アクタラ粒剤5を使用しなくてもよい
2	5月 下旬	展着剤(ハイテンパワー) ダコニール 1000 ウララDF	10ml 100ml 50g	200L	M5	29	べと病、うどんこ病、炭そ病、褐斑病 灰色かび病、黒星病 アブラムシ類、コナジラミ類	
3	6月 月上旬	展着剤(まくぴか) トップジン M 水和剤 オーソサイド水和剤 80 コルト顆粒水和剤	30ml 66g 166g 25g		1 M4	9B	つる枯病、うどんこ病、黒星病 褐斑病、炭そ病、べと病、菌核病 灰色かび病 アブラムシ類、コナジラミ類	
4	6月 上中旬	アディオソ乳剤 アミスター20フロアブル	50ml 50ml		11	3A	アブラムシ類、オンシツコナジラミ ウリハムシ、菌核病、灰色かび病 べと病、炭そ病、褐斑病、うどんこ病	アミスター20 フロアブルは薬 害が出やすいので、高温時の 散布を避ける。
5	6月 中旬	展着剤(まくぴか) ダニサラバフロアブル ジマンダイセン水和剤 ウララ DF	30ml 100ml 166g 50g	300L	M3	25A 29	ハダニ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病 アブラムシ類、コナジラミ類	オオタバコガが発生している 場合、「ウララDF」に代えて「プ レバソンフロアブル5」(2,000 倍)を散布する。
特別	6月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		1		つる枯病(予防)	接ぎ木部を中心に 地際から 20cm 塗布
6	6月 下旬	展着剤(ハイテンパワー) ドーシャスフロアブル ダントツ水溶剤	10ml 100ml 50g		21+M5 4A		炭そ病、べと病、うどんこ病、褐斑病 黒星病、アブラムシ類、カメムシ類 ミナキイロアザミウマ、コナジラミ類	
7	6月下旬 ~ 7月上旬	アミスター20フロアブル コルト顆粒水和剤	50ml 25g	11	9B	灰色かび病 べと病、炭そ病、褐斑病、うどんこ病 アブラムシ類、コナジラミ類	べと病(疫病)の発生が心配さ れる場合は、「アミスター20 フ ロアブル」に代えて「ゾーベック エニベル」(750 倍)を使用す る。	
8	7月 月上旬	展着剤(まくぴか) ハチハチ乳剤 ジマンダイセン水和剤	30ml 100ml 166g	39 M3	21A	アブラムシ類、アザミウマ類 コナジラミ類、ウリノメイガ、うどんこ病 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	ダニの発生が心配される場合 は、「アグリメック(1,000 倍)」を 加用する。	
9	7月 中旬	展着剤(アビオン E) ヨーバルフロアブル ダイパワー水和剤	100ml 40ml 100g	M7+M4	28	ハスモンヨトウ、アブラムシ類、コナジラミ類 ウリノメイガ、ハモグリバエ類、アザミウマ類 うどんこ病、べと病、褐斑病、炭そ病	アブラムシ類の発生が心配さ れる場合は「ウララDF(2,000 倍)」を加用する。	
10	7月 中下旬	展着剤(アビオン E) コロマイト乳剤 ゲッター水和剤	100ml 100ml 66g	10+1	6	ハダニ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類 炭そ病、菌核病、灰色かび病 褐斑病	べと病の発生がある場合は 「ザンプロDMフロアブル(2,000 倍)」を加用する。	
11	7月 下旬	アミスター20フロアブル コルト顆粒水和剤	50ml 25g	11	9B	褐斑病、べと病、うどんこ病、炭そ病 菌核病、灰色かび病 アブラムシ類、コナジラミ類	薬害回避のため展着剤は使 用しない。	
12	7月下旬 ~ 8月上旬	展着剤(まくぴか) アディオソ乳剤 オーソサイド水和剤 80	30ml 50ml 166g	M4	3A	アブラムシ類、オンシツコナジラミ、ウリハムシ 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	ダニの発生が心配される場合 は、「サンマイトフロアブル」 (1,000 倍)を加用する。	
13	8月 月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ベルコートフロアブル ディアナ SC	10ml 50ml 40ml	M7	5	うどんこ病、褐斑病、菌核病 炭そ病、灰色かび病、黒星病 アザミウマ類、コナジラミ類 ハモグリバエ類、ウリノメイガ	アブラムシが発生している場 合は、「トランスフォームフロア ブル(2,000 倍)」を加用する。	

当防除暦の複製・コピーを禁止します

# 夏秋きゅうり防除暦(後半)

	防除時期	使用薬剤名	水 100% 当りの量	使用量	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備考
特別	8月上旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		1		つる枯病	接ぎ木部を中心に地際から 20cm
14	8月上中旬	展着剤(まくぴか) アルバリン顆粒水溶剤 ジマンダイセン水和剤	30ml 50g 166g		M3	4A	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類、カメムシ類、ウリハムシ、べと病、黒星病、炭そ病、疫病、褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	ハダニが発生している場合、「スターマイトフロアブル(2,000倍)」を加用する。
15	8月中旬	展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000 トップジンM水和剤	10ml 100ml 66g		M5 1		うどんこ病、炭そ病、灰色かび病、菌核病、斑点細菌病、褐斑病、べと病、黒星病	オオタバコガが発生している場合、「プレバゾンフロアブル5」(2,000倍)を加用する。
16	8月中旬～下旬	展着剤(ハイテンパワー) セイビアーフロアブル 20 プレオフロアブル	10ml 100ml 100ml		12	UN	褐斑病、灰色かび病、菌核病、ウリノメイガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類	
17	8月下旬	展着剤(ハイテンパワー) カネマイトフロアブル オーソサイド水和剤 80	10ml 100ml 166g	300L	M4	20B	ハダニ類、褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	褐斑病、炭そ病の発生がある場合は「オーソサイド水和剤 80」に代えて「ゲッター水和剤(1,500倍)」を混用。
18	8月下旬～9月上旬	展着剤(ハイテンパワー) トレボン乳剤 ベルクートフロアブル	10ml 100ml 50ml		M7	3A	アブラムシ類、コナジラミ類、炭そ病、褐斑病、うどんこ病、菌核病、黒星病、灰色かび病	
19	9月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000 ダントツ水溶剤	10ml 100ml 50g		M5	4A	炭そ病、べと病、うどんこ病、褐斑病、黒星病、灰色かび病、アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類、カメムシ類	
20	9月中旬	展着剤(ハイテンパワー) モレスタン水和剤	10ml 50g		M10	UN	うどんこ病、コナジラミ類	オオタバコガが発生している場合は「トレボン乳剤(1,000倍)」を加用する。
21	9月下旬	展着剤(まくぴか) トップジンM水和剤	30ml 66g		1		うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病、黒星病、菌核病	

混用順序：展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル → ドライフロアブル(DF) → 顆粒水和剤(WDG) → 水和剤

- ※ 曇天・長雨などで日照不足時には「オルガミン DA(1,000倍希釈)」と「ハイプログリーン(1,000倍希釈)」を葉面散布する。
- ※ 散布間隔は5～7日を目安とし、降雨の前後は間隔を縮めて散布してください。
- ※ 農薬の混用順は下記を参考にしてください。
- ※ 気象条件や管理、品種等により発生病害虫が変わりますので、病害虫防除基準を参考に状況変化に対応して下さい。
- ※ アミスター20 フロアブル、アミスターオプティーフロアブル、プリントフロアブルは、浸透性のある展着剤(ニーズ、アプローチ BI、ミックスパワー等)とは混用しない。
- ※ うどんこ病が発生している場合は、発生初期にモレスタン水和剤 2,000倍・ネクスターフロアブル 1,000倍液で散布する。
- ※ IRAC・FRAC のコード番号が連続しないように防除を組む。

主な葉面散布剤

商品名	成分等	使用目的	倍率
オルガミン	窒素 0.11%、苦土 4%、ほう素 0.7%、加里 0.11%、マンガ 0.25%、アミノ酸入り	光合成促進、成疲れ回避	1,000倍
ハイプログリーン	窒素 6%、リン酸 5%、カリ 5%、アミノ酸入り	成疲れ回避・光合成促進	500倍
アミノメリット特青	窒素 12%、リン酸 3%、カリ 3%、アミノ酸、ホリリン酸、マンガ、ほう素、鉄、銅、亜鉛、モリブデン入り	成疲れ回避・光合成促進	500倍
ボロンセブン	窒素 3%、りん酸 6%、カリ 5%、ホウ素 7%マンガ 5%、苦土 5%	ホウ素欠乏(くびれ果)対策	1,000倍

当防除暦の複製・コピーを禁止します